

わがまち南国市の

夢

新春座談会

新しい年のスタート、恒例となりました新春座談会は市長・市議会議長さんとともに、産業・文化面などで活躍の四人の方に集りいただきました。二十一世紀を先取りするまほろばの里にふさわしい都市の実現を目指し、新たな魅力と個性のある「人とまちの創造」を大いに語っていただきたいと思います。

出席者

「新しい年どんな年」



大町 行治
南国市長

【司会】 あけましておめでとうございませう。新春にふさわしく、きょうの座談会は、「イメージアップ南国」を創造してみたいと思います。最初に市長・議長さんの新しい年にあたっての抱負をお聞かせください。



寛 幸蔵
南国市議会議長

【市長】 あけましておめでとうございませう。今年はその年です。昨年は自立をかけた挑戦の年として、基礎体力づくりに取り組みできました。今年には自立へ向けた着実な前進の年として、市民が主役になったまらづくりを志願しています。特に、今年の重点課題



の一つに、高知空港拡張問題があり、平成十二年の供用開始に向けて、大きなプロジェクトとなります。

地方拠点都市の事業では、南国オフィスパークが、全国に先駆けて着工します。総合通信企業・情報処理サービス業など、平成九年には本格的な分譲に入ります。後免町周辺の開発は、南国らしい

「にぎわいとつるおいのあるまち」として、吾両山の文化の森を含む事業の具体化を図っていきます。ほ場整備は、大規模な整備が岩村地区で着工となりました。

今年、平成九年の神戸・鳴門ルートの明石海峡大橋の完成、四国横断自動車道の南国・須崎間の開通、平成十二年には高知空港の再拡張による供用開始、平成十四年には高知団体の開催と、これらを見通した南国市づくりを念願しています。

【議長】 あけましておめでとうございませう。今、市長さんからお話がありました。まさに南国市は大変な事業、行事が具体化されています。そ



矢農 孝夫さん
高知カシオ株式会社取締役



吉川 京子さん
国際ソロブチミスト南国会長



山本 美穂さん
第23回南国市民賞受賞者



高村 幸貴さん
第26回南国市民賞受賞者

れらを解決していくことが、市議会でも重要課題になっています。最近の政治、経済、社会の変遷は目覚ましいものがあります。急速な高齢化の進展、健康と生き甲斐の指向など、市民の意識やニーズも多様化してきました。南国オフィスパーク事業は、若者に魅力のある事務所などを誘致して、「オフィス街」をつくるものですが、とりわけ、二千人程度の雇用が見込まれており、働く場をつくることにより、若者の定着を望んでおります。着実なものにしていくつもりです。

カシオの中でも南国の工場は最重要とされています。今年、第二工場を軌道に乗せることが一番重要だと思えますし、ここで出来る商品が「カシオ」のこれからの新しい商品開発に不可欠な役割を担っていかなくてはならない工場になっていくだろうと思えます。

【山本】 昭和二十年八月、終戦の前日、大空襲に会い、たくさんのお友達を亡くして、終戦を迎えました。それ以後約五十年間、ほんとうに元気な南国市で暮らしています。高齢者の相談相手、青少年の健全育成など少しもお役にたてればと頑張っています。私もできるだけ海外に出ていくようにしています。



【高村】 大正十四年に南国のまほろば国民学校に生まれました。昭和十二年に学校を卒業し、高知県から初めての就職先として、早川電機に入社しました。入社後、予科練（飛行予科練習生）になり、その一年後は特攻隊に入りました。その後、ふるさとまほろばの里に帰り、四十数年、理容店をやっています。その間民生委員を三十八年務めさせていただきました。これからも、社会福祉、少年育成などに頑張っていきたいと思っています。

「魚の住む国分川に」

【司会】 市には地場の酒がないというところで、昨年、銘酒「賢之」ができ、イメージアップもされました。ほかのまちにはない魅力をとんとんと感じますか。

【市長】 都会から来た者にとつての魅力は、やはり自然です。山があり、川があり、自然を壊さないようにしたいですね。

に魅力を感じます。

【吉川】 自然環境がいいですね。水が豊富、明るい、広々としている。空気がきれい、季節のものが多い、名所や古跡が多い、海岸が美しい、そして空港、鉄道、高速道路がある。発展の可能性を持った地域、その上、市長さんは郷土愛、行動力、先覚の目があり、そんなところに魅力を感じます。

【山本】 私の地区のお年寄りの方が週二回、海岸の清掃をしてくれています。市民自らの環境意識の高揚はすばらしく、ボランティア精神の優れているところに魅力を感じます。

【司会】 「住み続けたいと願うまち・南国市」にするには、何をすべきか。まちづくりのサポーターとして、未来図を描いてください。

司会 田岡 信雄
広 報 委員 長



【高村】 人口十万人の副都府を目指していますが、国府は南国市の真ん中にありながら、

家が建てられない状態です。そのため、小学校の児童が減って、以前のような複式学級になるのではないかと心配しています。

【山本】 高齢者が増え続けている中で、病院に行きたくても、自家用車が増え、定期バスが減らされたり廃止されたりで足を奪われています。タクシーを利用するにも年金生活では困難な状態です。海岸線の地域では高知市から送迎バスが来て、南国市のお年寄りたちは高知市の病院に通っている状態です。南国市内でも市内定期バスを運行してくれたいと思いますね。

住環境の整備を

夫婦暮らしのお年寄りも増えていきます。一人が施設へ入所しなければならなくなったときは、一人暮らしになります。民生委員の目の届かない山間部などは不便を感じます。夫婦でいっしょに入れる施設が欲しいですね。

【山本】 高齢者が増え続けている中で、病院に行きたくても、自家用車が増え、定期バスが減らされたり廃止されたりで足を奪われています。タクシーを利用するにも年金生活では困難な状態です。海岸線の地域では高知市から送迎バスが来て、南国市のお年寄りたちは高知市の病院に通っている状態です。南国市内でも市内定期バスを運行してくれたいと思いますね。

た。川に入ることを止められていたように思えます。国分川を昔のように魚の住める川にしたいですね。大飯へ働きに行ったりも競争に行ったりも「心のふるさと」としていつも国分川が思い出されました。川辺の豊かな自然を復活させて、昔のような魚のいる国分川にしたいですね。もっと川に心を近づけましょう。

【矢島】 一つには住環境の整備だと思えます。イメージとしては一戸建て庭つきでなくとも、快適な暮らしが出来ればよいわけで、周りの環境が第一だと思えます。スポーツ施設があるということもよいでしょう。工場の立場からいえば、例えば、カシオはエレクトロニクスの世界ですのでなかなか一緒にパートナーを組む方はいない、そうするとどうしてもこのことがネックになり、南国へ進出させていられないかもしれません。

【市長】 住宅問題はいくつかの要件を満たさなければいけない。高齢者にやさしいまちづくりも大きな柱です。後免町の再開発事業の中で高層者向きの住宅やケア付き住宅を含めたもの、北部のオフィスパーク、医科大学を中心とする地域の住宅、篠原周辺の道路、街路整備による事業の中で一般の居住住宅と、それぞれの対応に応じた三つのタイプの住宅を平成九年を目標に取り組んでいきたいと思っています。

【市長】 健康文化都市として健康生活の意識づくりがされていきますが、自分にあつた健康づくりに心がけたいですね。私は健康管理の面で芸西村の海水プールや香北町のセレネの温水プールに出かけています。水泳をすることにより、体も軽くなり、明日への活力も生まれます。高知国体も間近となっています。室内プールの建設はどうでしょうか。

ばらしいことだと思います。心の健康づくりはまほろばの流れです。



【市長】 健康文化都市・南国のシンボルマークができました。南国のNとオナガドリを組み合わせたもので、尾が虹をイメージし、健康への架け橋を表しています。新しい年のシンボルとなります。健康文化をより広い意味で理解し、市の特色を織り交ぜた広がりのあるまちづくりを進めていきます。

【市長】 「県民の豊かさ指標」によると、決して住みやすい県ではないという指標がでてきます。その主な要因は、産業・生活基盤の整備の遅れだと考えられます。それだけに、地方拠点都市として果たすべき役割は大きい。地域に根ざした個性あるまちづくりを市民の皆さんと一体となって「その気」になってやっていきたいと思えます。反対に整備ができていないということが、やり方によっては南国市の大きな可能性だと思えます。

【司会】 南国市は「土佐のまほろば」といわれ、潜在的成長力を持った地域です。魅力あるまちづくりを、市民一人ひとりが主役になって力を合わせてつくりあげていきたいと思えます。きょうはありがとうございました。



夢のあるまち 南国市

【司会】 いろいろとお話してまいりましたが、市政に対するユニークなアイデア、また、夢などがありましたらお聞かせください。

【吉川】 若い者とお年寄りの相互扶助として、例えば、若夫婦が出かけるときお年寄りが子供をみてあげる「おばあ

【市長】 健康文化都市として健康生活の意識づくりがされていきますが、自分にあつた健康づくりに心がけたいですね。私は健康管理の面で芸西村の海水プールや香北町のセレネの温水プールに出かけています。水泳をすることにより、体も軽くなり、明日への活力も生まれます。高知国体も間近となっています。室内プールの建設はどうでしょうか。

【市長】 「県民の豊かさ指標」によると、決して住みやすい県ではないという指標がでてきます。その主な要因は、産業・生活基盤の整備の遅れだと考えられます。それだけに、地方拠点都市として果たすべき役割は大きい。地域に根ざした個性あるまちづくりを市民の皆さんと一体となって「その気」になってやっていきたいと思えます。反対に整備ができていないということが、やり方によっては南国市の大きな可能性だと思えます。

みちのく 岩沼市



伝統の味 はらこめし

岩沼市、隣町の瓦理町、仙台市と県南部沿岸地域の秋から冬にかけての風物詩「はらこめし」は、サケのはらこ(卵)と身を使った料理です。サケ漁が行われている阿武隈川河口にその昔、仙台藩主伊達政宗公が運河建設のため訪れたさい、付近の漁民がご飯の上にはらこをのせた料理を献上したところ、それが大変美味だったことから政宗公が家臣に吹聴し、周辺地域にも広まったと言われています。

作り方は各家庭により多少の違いはありますが、まず、酒、しょう油、砂糖を混ぜたものに、サケの身を入れて煮立たせます。煮立ったら身を取り出し、その汁にはらこを入れてほぐします。ほぐし終わったら、はらこを除いた汁で米を炊き上げます。炊き上がったご飯の上に、ほぐしたはらこを煮付けた身をのせるとできあがりです。

季節感たっぷりの「はらこめし」。炊き込んだご飯、サケの身、そしてはらこが口の中で混じり合っ、とてもおいしいですよ。